



2009年度聖句

わたしは弱いときにこそ強い
(コリントの信徒への手紙 ニ 12章10節)

読売巨人軍野球教室（於・本学総合グラウンド）



いずみちゃん クラークくん
(クラーク学園和泉短期大学のマスコットキャラクター)

izumi ニュース Vol.4

和泉短期大学 広報専務・庶務ユニット
発行責任者 理事長 深町 正信

〒229-8522 神奈川県相模原市青葉 2-2-1
TEL.042-754-1133 (代表)
URL <http://www.izumi-c.ac.jp>

特集

宗教部の活動 宗教部長 横川 剛毅

izumi TOPIC 誌上公開講座 No.①『リトミック』 教授 武石 宣子

- 真鍋記念奨学生特別奨学生の顕彰式
- 和泉短期大学児童福祉奨学生
- 篠塚 和典氏（読売巨人軍コーチ）特別講演会
- キャリアアップデー—ふたたび和泉での学びを—
- 海外で活躍する卒業生
- 和泉短期大学同窓会いづみ 通常総会

宗教部の活動

～願わくは、このキリストの泉から若者たちの
清らかさと愛とが湧き出でんことを～

「わかりやすく伝えたい」



宗教部長・准教授
横川 剛毅

2009年4月より宗教部の仕事をしております。初めての経験です。「どのようにすれば、学生さんとキリスト教活動との距離が縮まるのか」ということを模索しています。そして最近になって、「わかりやすい」、「堅苦しくない」、「心に響く」キリスト教活動を目指していきたいと考えるようになりました。そのために引き継がれてきたものを活かし、新しい発想も試行錯誤していきます。

卒業生の皆様。母校がキリスト教主義の学校であったことが、現在何らかの形で活きていると大変嬉しいです。それぞれのお立場での歩みが、「神を信じ、人に仕える」豊かなものであることを心から祈っています。

在学生の皆さん。皆さんのが神様の存在を意識できるようにさまざまな機会を通して伝えていきます。どうぞチャペルアワーや宗教部の活動にご参加ください。ともに讃美し、ともに祈りましょう。

特別礼拝

私たちは毎週月曜日2時限目のチャペルアワーの他に、特別礼拝をお捧げています。

召天者記念礼拝は、クラーク学園に関わってこられ、天国で見守っていてくださる方を覚えて毎年11月にお捧げする礼拝です。今年度は「主にあって復活し」というテーマで、深町正信理事長がお話くださいました。

クリスマス礼拝は、御子イエスキリストの誕生を一人一人が心に受け止める礼拝です。子育てアドバイザーの大畠真由実さんが「言葉の力、声の力」と題してメッセージを届けてくださいました。

その他にも4月のイースター礼拝、創立記念礼拝、11月のクリスマスツリー点火祭、3月の卒業感謝礼拝があります。



召天者記念礼拝説教：深町正信理事長



召天者(天に召された関係者)

宗教部所属の団体



クリスマスツリー点火祭：学生聖歌隊

学生聖歌隊は、神様を心から讃美するため毎週練習を重ねています。特別礼拝などの讃美奉仕で欠かせない存在です。クリスマスコンサートでは、集まった子どもたちが大好きな曲を心に響くハーモニーで届けました。山本美貴子宗教部主事が指導しています。

ハンドベル・クワイアは、部員の減少で存続が心配されましたが、今年度6月より新たにスタートし演奏のたびに腕を上げてきました。現在はレパートリーが増え、12月には外部からの依頼演奏もやり遂げました。田中幸子先生にご指導いただいている。



依頼演奏(相模大野駅・南北自由通路)：ハンドベル・クワイア

I.C.F (Izumi Christian Fellowship)は、学生を中心とした集まりです。毎週定例会を開き、ともに食事し、讃美的ときをもっています。チャペルアワーでも奨励の奉仕をしました。

誌上公開講座 No.①

『リトミック』

教務部長・教授 武石 宣子

担当授業科目：「リトミック」「器楽(ピアノ)」



イメージ表現発表会



《芸術的な感覚の育成》

子どもの音楽教育を考える場合、多くの大人たちは、ピアノを上手に弾けさえすれば、立派な音楽家であると思い込んでいます。このことは大変残念なことです。ピアノが弾けなくても音楽が好きで、感受する能力を持っている人は多くいます。もしかしたら、これらの子ども達の方が、上手に弾くピアニストよりも、すばらしい資質を備えた音楽家であるかもしれません。音楽に対する感受性の充分な訓練は、音楽を超えた芸術的な感動を呼び起します。この感受性の訓練が『リトミック』なのです。

それでは、ここで述べている感受性の充分な訓練とは、いったい何を指すのでしょうか。それは、子どもに自分自身を理解させ、生来持っているリズムに気づかせることを意味しています。また身体と精神組織との間の、円滑な相互関係の確立を築くことでもあります。音楽は、統制力と外的な刺激を同時に持ち備えています。音楽は、人間の持つ行動原理をあらゆる角度から引き出し調和に導きます。精神組織の高まりに比べて、知的作用の高まりが優先されている今日であるからこそ、自分自身を調節できる音楽的刺激による『リトミック』の効果に期待するのかもしれません。

規則的で統制されたリズムによる身体的感覚のイメージ注入は、人間の心の奥深くまで記憶として刻み込まれます。『リトミック』におけるリズムの学習では、精神組織の訓練が含まれ、感受性を伸ばす助けとなります。

生まれつき精神組織の優秀な素質を持ち得ている子どもでも、感受性を高める訓練が導入されないと、芸術的な資質の表出は困難となります。まさにこの音楽的刺激と、身体的感覚による精神組織の結びつきこそが『リトミック』であり、人間を豊かにする最大のものです。

私は、『リトミック』とは何ですか。と質問されますと、「リトミックとは、全身体をオーケストラのように使い、音楽を受け止め、主体的に行動することです。」と答えます。そして、さらにこう付け加えます。「リトミックは、行う人の心を創造的な世界に導く、不思議な魔法を持っています。」と。

《体得による把握》

音楽概念、そして音楽理論の知識は、音楽性の発達を支えます。しかし知識や理論だけでは、子どもが自分自身で事実と現象の関係を見つけ出し、その種類や性質を見分け、分類し、発展させるという学習過程は確立できません。それは、体得する課程の中で初めて培う事のできる、理論では分析不可能な学習効果を指しているからです。

また、多くの教師がモデルとして行っている、誰もが認めていたりとされている優れた心理学者や教育学者の理論による方法論の是非をここに、指摘しておきます。それは、愚かな教師は、とかく世間でいう良いとされている方法に従ったプログラムそのままで、指導展開をしているということです。『リトミック』も然り、このことを充分に考える必要があります。教師は自分自身のアイデアを生かしたプログラ

ムへと、移行できる能力を備える必要があるからです。教師の指針とする理論を教育現場の中でいかに応用し実践するかは、その教師の素養と努力にかかっているからです。

子どもは教師や周りの友達の行動を模倣し、その模倣は技術の獲得へと発展します。模倣を土台にし、模倣を超えたところに子ども自身の個性が発見されます。このことは、教師の何気ない行動が、子どもに影響を及ぼすことを意味しています。子どもが自分自身の表現方法を持った時、つまり子ども自身の概念が形成された時に教師はその瞬間を把握し、子どもの成長と共に認め喜ぶことができるかが重要になるからです。

子どもは行動によって学習し、さらにイメージを通して学習が高まります。また子どもは偶発的、空間的そして人間的に感じるままに表現します。逆に捉えると、人間的な感覚を引き出す手段として、リズムを身体表現で体得することは、人間の生きる成長過程にとって意義があります。全ての音楽要素を含む、リズムと身体表現との相互作用を重視している『リトミック』であるからこそ、無理なく真に人間的な動きを形成し成長に導くと、ここに言及できるのです。



イメージ表現発表会

《感動による教育》

リズムによる教育、一見するとそれは、音楽の一つの要素による訓練のように思いますが、それを受けている全ての人々に、芸術に対する感動を呼び起こすことができると、私は確信いたします。

何気ない動作の中に、最もその人らしさを感じことがあります。運動神経を鋭敏にする訓練の際、個人的な性格の特徴が驚くほど現れます。緊張と弛緩のコントロールや、確固とした思考力の基に置かれた身体機能の確立を目指している教育は、受ける人の性格にまで感化し、調整をもたらします。物の考え方、感じ方や行動によって特徴が裏づけられるからです。その人独特の傾向は、気質の直接的な表現によるだけでなく、『リトミック』—運動神経組織の全体的な能力に関する頭脳の発見—の効果的な結果でもあります。この教育により鋭敏な神経と強い感動を自ら獲得し、性格に対する必然的な反応を精神活動の中に見ることができます。多くの感動を獲得することにより、人間は豊かに成長することができます。

運動機能と聴覚機能の結合は、知的教育の体系で制限された指導法では、得ることの不可能な、新しい進歩を探し求めることができます。音楽を構成するリズムの発祥は身体活

動の中にある、その活動は、表現の表出を完結にします。また思考と感情が一体となっている音楽表現そのものもあります。そしてリズムを用いた教育は、感動を養うことのできる唯一の方法であると信じます。

しかし、いつの場合にも、どのような環境にあっても、子ども側からは、このような教育システムを望む訳にはいきません。また教師が真の音楽的体験には、認識と情緒の両面、感性の育成、聴覚機能を伴う筋肉的感覺の価値等々、これらが必要であることを重視していないと、子どもの内に秘めている情操の扉は閉じたままなのです。多くの教師は、知的学習にのみ価値を置き、目に見える、効果の早く出る、見せかけの成果を求めていません。子どもに関わる全ての教師、そして将来教師になるであろう人々は、このことを肝に銘じて感知しておかなくてはならないのです。本物の価値は、目に見えないところに、そして隠れたところにあることを。

聴覚的経験に応ずる身体表現を通して筋肉と神経の働く作用による教授法—『リトミック』により、芸術に必要な感覚をも訓練し、そこから豊かな感情、情熱、そして、感動をも目覚めさせ、精神分野を統一—が、理想的な教師によって行われたならば、子ども達は、芸術的な喜びでどんなに生き生きとするでしょうか。



イメージ表現発表会



課題 オリジナルネイチャービンゴの作成

《2009年度後期：授業メモより》 ☆☆☆キーワード提示☆☆☆ 於：リトミック室

1回目	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション はじめまして ・じゃんけんbingo ・教育者とは(图形を使って) ・ドレミファソラシドの体得 ・即興(クリッサント) ・手遊び(マクドナルド・鶴陽軒) ・理論<感覚機能に刺激を与える訓練法> 	2回目	<ul style="list-style-type: none"> ・クレッセンドとディミニュエンドを身体で表現 ・エスカレートじゃんけん ・基礎リズムの把握(4分・2分・8分・スキップ) ・プロムナードポジション ・ソルフェージュ(1音・2音→耳で聞き声で再生) ・即興(2音列) ・手遊び(ひげじいさん→復活バージョン) ・理論<体得する事の意義> 	3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・ミレミとラソラ(名前の呼びかけ) ・名前の呼びかけ→2人組のゲームへ発展 ・2人組と3人組のプロムナードポジション ・スキップとギャップの違い ・全音と半音(コーヒーと牛乳・水と油) ・即興(声による即興→オノマトペ) ・手遊び(パン屋さん) ・理論<反射と反応の違い>
4回目	<ul style="list-style-type: none"> ・連鎖動作(リズム)→カノン ・リズムバスターの模倣 ・リトミックカノンダンス(虫の声・シャローム) ・基礎リズム(4分:円形ステップ、2分:座ってオノマトペで舟こぎ、8分:自由に受け足・スキップ:プロムナードポジションでスキップ) ・即興(平手たたき) ・手遊び(キャベツの中から) ・理論<刺激を5感で受け止める> 	5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・複リズム(4分・2分・8分の組み合わせ) ・木の中のリス(即時反応ゲーム) ・詩→「奈々子」から学ぶ ・即興(びっくり音) ・手遊び(肩たたき→サザエさんより) ・理論<灯れ輝くな> 	6回目	<ul style="list-style-type: none"> 『ネイチャーゲームのアイディア②』渕野辺公園 ・サウンドマップ→自然環境音のスケッチ ・私の木→目隠しで導入 ・情景描写→写生(オリジナルイメージによる題名) ・手遊び(歌でご挨拶→ハロー・ハロー→) ・理論:く同じ目線で>
7回目	<ul style="list-style-type: none"> 『ネイチャーゲームのアイディア②』渕野辺公園 ・カムラゲーム→カメラとカメラマンの対話(2人組) ・フィールドビング→自然環境によるbingo ・落ち葉拾い ・虫食い・ギザギザ・表と裏の色が違う・手より大きな葉・めずらしい葉) ・手遊び(なつとう) ・理論:くハブニングはチャンス> 	8回目	<ul style="list-style-type: none"> ・ユートニー→緊張と弛緩を身体でコントロール ・ボディートレーニング ・ボディーパーカッション→花火をテーマ ・即興(動きのため即興) ・手遊び(三ツ矢サイダー) ・理論<to know/to do/to be> 	9回目	<ul style="list-style-type: none"> 『素材を用いた遊び①』新聞紙(大きくなったら) ・素材を用いた遊び②→折り紙(こぶたぬきつねこ) ・音符カード作り(4分・2分・8分・スキップ) ・即興(名前をモティーフに声によるアンサンブル) ・手遊び(3:2→董鼈ぞうさんと雨ふりくまの子) ・理論<ホッとさせよ→アイスブレーキング>
10回目	<ul style="list-style-type: none"> ・8小節のリズムフレーズをステップ(オノマトペ・クラップ・ステップ・指揮を付けて) ・子どもの指導における即興①(風の音・子守唄・魔法の呪文・びっくり音・忍者・流れ星) ・手遊び(食いしん坊のゴリラ→バナナ・スイカ・カッパラーメン・焼き芋) ・理論<与えるのではなく引き出すことの意義> 	11回目	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法①→基礎編(名前の呼びかけ・ドレミファソラシドの体得・基礎リズム・即時反応) ・子どもの指導における即興②(黒鍵・全音音階・教会旋法・ドレミファソラシドの伴奏音・名前の呼びかけの伴奏音) ・手遊び(後出しじゃんけん) ・理論<失敗は成功の基> 	12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法②→応用編(海底散歩・忍者ごっこ) ・イメージ表現発表への一連のプロセス①→課題の選定→テーマの設定・表現時間設定・音楽設定・衣装設定・小道具設定 ・即興(あんたがたどこさ・ホッホッぽーたるこいを題材にグループによるカノンアンサンブル) ・手遊び(いがり子猿) ・理論<1を与えるのに100の表現をせよ>
13回目	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法③→絵本を使って(シンデレラ・3匹の子豚) ・イメージ表現発表への一連のプロセス②→言語によるストーリーの作成・表現空間の設定準備・見せる対象者をイメージする ・即興(総合→振り返り) ・手遊び(積み重ね歌→大工のきつつき) ・理論<ダルクローズが考えたこと> 	14回目	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ表現発表への一連のプロセス③→ゲネプロ(発表準備)・イメージ表現発表のレポート完成(グループ提出準備及び個人提出準備) ・手遊び(総合→振り返り) ・理論<リトミックに関する文献を紹介> 	15回目	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ表現発表→一連のプロセスを通して表(結果)に隠された裏(プロセス)の重要性を知る ・他の発表を鑑賞し学ぶ(対話と振り返り) ・1回目から15回目までの授業の振り返り ・学生による「授業に対する意見調査」

テキスト:武石宣子著「リトミックレッスン」共同音楽出版社

成績評価:①授業態度・授業への参加度(50%)②イメージ表現による発表(30%)③課題の提出(オリジナルネイチャービンゴの作成・イメージ表現課題の絵)(20%)

2009年度眞鍋記念奨学生特別奨学生の顕彰式

眞鍋記念奨学生は、本学園の設立に功績のあった、故・眞鍋頼一理事長の寄附を基金とする奨学生です。

本学園の建学理念である、キリスト教精神の“愛と奉仕”的もと、広く社会に貢献する学生の育成を図るため、毎年、和泉短期大学と和泉福祉専門学校の成績優秀な学生に対して、2年次後期の授業料が支給されます。

2009年度は、以下の学生が特別奨学生に決定し、和泉クラーク・ホールにおいてクリスマス礼拝後に顕彰式が行われました。

< 2009年12月15日(火)及び21日(月) >

和泉短期大学	矢島 明子 酒川 良子 村上 納里	和泉福祉専門学校	青木 好美
--------	-------------------------	----------	-------



深町正信理事長(右)・伊藤忠彦学長(左)と短大特別奨学生の皆さん

短期大学の特別奨学生3名のコメント

矢島 明子

奨学生に選ばれたと知った時は驚きましたが、とても嬉しかったです。私は短大生活で、学生聖歌隊をはじめ、幾つかの活動に掛持ちで所属していた為、忙しい日々を送っていました。沢山迷惑もかけたと思いますが、いつも支えて応援してくれる友達や先生方、家族がいたからこそ、勉強を含め両立して頑張る事ができました。それが形となり、今回、奨学生になれたのだと思っています。本当にありがとうございました。

酒川 良子

眞鍋記念奨学生の特別奨学生の一人に選ばれ、大変嬉しい思います。

和泉での学生生活は想像以上に濃く充実した毎日を過ごすことが出来ました。私が今年度の受賞者として選ばれたのも先生方をはじめ、Lグループやアスリートサークル、2年間に出逢ったすべての仲間達の支えと笑顔があったからこそだと思っています。

これからも“愛と奉仕”的心を忘れず社会に貢献していきたいです。

村上 納里

私は、社会人特別選抜試験で入学しました。入学当初は再び学生となることに不安がありました。しかし、保育を志す仲間や親身になってくださる先生方に恵まれ、勉学に励むことができました。和泉で充実した2年間を過ごせたのも私を支えてくれた友人、先生方のおかげだと思います。今年度の眞鍋記念奨学生の特別奨学生に選ばれたことをとても嬉しく思います。これから再び社会人となりますが、和泉で学んだことを誇りに精進したいと思います。

和泉短期大学児童福祉奨学生の新設

本学園の建学理念である“愛と奉仕”的もと、将来児童福祉の分野に貢献しようとする、本学を受験する時点で、児童養護施設に入所している児童及び里親家庭に措置されている児童で、本学に入学した学生に対して、就学支援することを目的とし授業料を減免する奨学生制度が始まり、4名の学生が特別奨学生に決定しました。(1年生1名、2年生3名)

給付金額

1年次後期から2年次後期までの各期の授業料を100,000円ずつ減免(合計300,000円)

篠塚和典氏（読売巨人軍コーチ）特別講演会を開催

2010年1月18日(月)和泉クラーク・ホールで篠塚和典氏の特別講演会が開催され、1・2年生417名が出席しました。

講演内容は、幼少期に野球を始めた話から始まり、ご自身のコーチとしての選手の育て方を熱く語っていただきました。また、選手時代から福祉活動を行い、現在はアジアの子どもたちの成長と地域の自立を目指して活動を続ける日本のNGOの草分けである認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンを通してフィリピンの子どもたちの生活を支援するスポンサーをされています。質疑応答の後は、サイン色紙の抽選会が行なわれ、当選者は歓声を上げて喜んでいました。

※チャイルド・ファンド・ジャパンは本学園の創立したCCF(Christian Children's Fund)と同じ母体です。



興味深く耳を傾ける学生たち

キャリアアップディー ーふたたび和泉での学びをー を開催

文部科学省「学生支援推進プログラム」選定一環事業・「キャリアアップディー」が開催されました

2010年2月13日(土)、卒業生の皆様を本学にお招きして「キャリアアップディーふたたび和泉での学びをー」を開催致しました。当日は、午前中に池田守男先生(東洋英和女学院 理事長・院長、株式会社資生堂相談役)による指定講演「社会総がかりで子育てを」と、長山篤子先生(キリスト教保育連盟理事長)の基調講演「保育者としての成長ー今や、恵みの時 今こそ、救いの日ー」が行われました。昼食をはさんで、午後からは分科会が開催され、最後はシンポジストによる報告で幕を閉じました。

来年度の「キャリアアップディー」は、2010年11月下旬に開催する予定です。



海外で活躍する卒業生

2009年3月卒業

上海美しが丘第一幼稚園 教諭 青野 卓

上海美しが丘第一幼稚園は中国、上海の地で3つのキャンパスを展開し、上海における日本人駐在員の方々の子どもを中心に保育をしています。私が勤める名都城キャンパスには国際部も併設され、日本語クラスが5クラス、国際クラスが2クラスの計7クラスで運営しています。



Q1. 海外の幼稚園で働こうと思ったきっかけは何ですか？

スペイン留学の経験を活かしたく、日本国内における外国人保育、または海外での日本人保育に興味がありました。保育を通して子ども達が国籍に囚われない、様々な国への自由な架け橋になれるようにと考えていたのが始まりです。

Q2. 海外の幼稚園で働いていて苦労したことありますか？

私が働いている園は日本人向けの幼稚園なので、それほど大きな苦労はないのですが、国際部との連絡を必要とする時に、お互いの文化の違いや言葉等で苦労する面があります。海外と日本の保育の考え方の違いに当初は驚いてしまいました。



Q3. 海外の幼稚園で働いていて良かったことはありますか？

海外にある幼稚園という事で、改めて日本について考える場面が多々あります。日本でしか出来ない保育があれば、逆に海外だからこそ出来る保育もあり、様々な事に気付かされます。その他も含め、中々経験出来る事ではないので毎日を楽しんで過ごしています。

Q4. 後輩に向け一言お願いします。

和泉での学びの時間も大切ですが、周りの仲間や先生方と関わる時間も大切にして下さい。その経験が保育者として現場に立つ時にきっと役立ちます。皆さんが素晴らしい保育者となるように心から応援していますので、これからも和泉での生活を楽しんで下さい。

和泉短期大学同窓会いすみ 2009 年度通常総会を開催

2009年11月7日(土)11時から、和泉クラーク・ホール1階学生食堂において2009年度通常総会が開催されました。山田ひろみ会長他22名の同窓生と、本学園側から深町理事長、伊藤学長、豊福校長、佐藤事務局長、武石教務部長等の教職員及び和泉福祉専門学校同窓会喜楽の小林会長の11名が参加いたしました。

伊藤学長の開会祈祷に始まり、来賓挨拶として、深町理事長、伊藤学長から学園の発展は、同窓生の方々との連携を深めていく必要があり協力願いたい等の挨拶がなされました。

続いて議長団の選出が行われ総会の議案審議に入りました。

○ 審議事項

(1)2009年度会計報告及び事業報告、(2)2010年度予算及び事業計画、(3)和泉福祉専門学校同窓会「喜楽」について等が慎重審議され、了承されました。

○ 報告事項

(1)2009年度文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に選定された「和泉コミュニティ」についての説明、
(2)2010年度開設予定の専攻科介護福祉専攻についての説明がされた後、2010年度役員の紹介がありました。

通常総会を終えた後に、中島元教授の指揮により讃美歌217番と和泉短期大学カレッジソングと一緒に歌いました。「和泉」を想う気持ちが一体となり、短い時間ではありましたが和やかな雰囲気で楽しい時間を過ごすことができました。

2010年度も開催いたしますので、多くの同窓生の参加をお待ちしています。

